

むさし野

No.23

事務局 〒350-0822 川崎市山田912-7 石井方
電話 049-225-2466
E-mail : ishi.mkyr@r8.dion.ne.jp

新年明けましておめでとうございます 会長 石井 満

会員の皆様におかれましては、穏やかなお正月をお迎えの事とお喜び申し上げます。昨年はこの会報でも述べさせて頂きました富士山に登頂しました。梅雨明け前だったにも拘らず、ご来光を八合目で見ることが出来ました。昨年の抱負の一つであった事が達成できてよかったと思っております。小さな目標でも自分で立てた目標を達成すると、自分だけの喜びが体の中に沸きあがります。これは中々良いものです。



日記まがいのものを、もう20年以上付けておりますが。その書き出しの、今年の抱負がここ10年間くらいは殆んど同じです。例えば、酒を控える、英語の勉強を続ける、健康に注意する、絵を一枚は描く、山へ行くーなど、こう言った類のことが書かれています。しかし、こんな程度のことが年間を通じると中々成し遂げる事が出来ないものです。

「会」では、年間行事であります六月の総会、3回の会報の発行、2回の会員による講演会、そして、次年度からは春秋六大学野球の応援観戦「神宮の集い」を予定に入れます。あまり大きく考えず等身大の活動を心がけながら今年も一歩々々歩んで行きたいと思っております。是非会の行事の何れか一つにご参加下さい。そしてもう一つ、会報制作に投稿でご参加下さい、会員による会の会報です。お待ちしております。会員の皆様にとりまして今年も良き年でありますよう、お祈り申し上げます。

ちょっと良い話 『村々の喜び』 顧問 内田吉久



上州邑楽郡古戸村(元太田市古戸町)は、中仙道熊谷宿と例幣使道大田宿を結ぶ脇往還(現国道407号)中間の小村で継立場が設けられ、古戸・大田間の道法1里30丁を人馬継立をしていた。天保13年(1842)7月23日夜、道中奉行所役人より、道筋調査の指令が届いた。役人は25日朝5ツ時(現在の8時)頃、利根川対岸の妻沼村に着き、古戸村に昼4ツ時(10時)前に着いた。村役人が、取調べの内容を内々お伺いしたところ、「道法は、1里30丁より短いと」強く指摘されたが、「是までも1里30丁と報告しているので、この度の報告で、少しでも減少して報告すると奉行所側も困ってしまうので、道法は1里30丁に成る様に計算して、提出するように」との話であった。役人は「先宿(太田宿)で休息する」と言って先宿に向かった。村名主宗平は太田宿に先行して、高林村・西矢島村・飯塚村・太田宿の諸役人と報告書案を相談していた。各町村の実測値が合計が210間(417メートル余)短い為、100間に付き5間6分の割り増しをして、1里30丁に調整した。村々は、これを基準として守る事を約束して、1里30丁の道法で役人に報告し受理された。各町村は、難問が解決したので、大喜び。めでたし、めでたし。以後問題は無いとの話である。

*参考資料「古戸村阿藤家文書」

第10回・会員による講演会『靖国問題を考える』からの報告

(鳥海美智子 記)

2005年10月22日「さいたま市民会館浦和」において、上記の勉強会が開催されました。出席者9名と少なかったのですが、発言が活発で、予定の5時を過ぎるまで続きました。紙面の都合上、要約いたします。

・大川成一さん

A級戦犯が合祀されている事に対し、首相は参拝すべき42%、すべきで無い41%。外交、経済問題での不利益になる。大阪最高裁判所の判決を踏まえて、政治問題化するので首相の参拝に反対する。

・安藤勤二さん

靖国問題は日本人の心の問題で、参拝するのは事象で日本人の国家的心構えを問う必要がある。首相参拝にしても心の問題であるから、各自の判断に任せればよいと思う。

・内田吉久さん

日清、日露戦争で活躍した「秋山好吉」の墓名碑文を解説され、戦場の悲惨さを伝えた。現在、戦争の反省を内外にしていけないので、近代史を学び謝罪の気持ちを表し、日本の膨張政策を反省しなければならない。

・鹿野幸作さん

戦死者は、お国のため、残された家族の為に尊い命をささげた。国として祀り、敬虔な祈りを捧げるのは当然です。「靖国で会おう」を合言葉に戦死した英霊に対し、一国の首相が参拝し、不戦を誓うのは遺された者の責務です。

台湾旅行記

大川 成一

10月22日の勉強会は政治的テーマで白熱したが、11月5日から8日の3泊4日の台湾旅行は「台湾独立」問題の現地視察という心構えではなく、「命の洗濯」というストレス解消（特に職場）が主眼でした。

台湾の魅力は、親日の国（比較できるのはトルコ）です。韓国が「日帝37年」と現在史の表現をするのに台湾は「日本統治51年」と表現し、今回の現地ガイド劉明勲さんは早稲田卒の昭和10年生まれとの自己紹介でした。日本人の銅像も残っています。

また、本場の中華料理（個人的には飲茶のほうが美味しいと感じました）や孫も含めて三代・80年を費やした象牙球など皇帝コレクションがふんだんにある世界四大博物館の一つ故宮博物館は、6回目の訪問にもかかわらず感動しました。有名観光地で

霧の日月潭、炎暑の中での港町高雄、首都台北の観光も定番コースで見所がありましたが、今回は紹興酒で有名な捕里で選挙ポスターや葬儀現場などが目撃できたのが印象的でした。

アジアは「箸と漢字の文化圏」なので、特に台湾は看板を見るだけでも大意はわかります。例えば、コンビニは「便利店」と言う表示です。ただし、車は右通行でバイクが圧倒的に多いので、歩行には少し恐怖感がありました。

阪急社主催のパッケージツアーで、飛行機・ホテル・観光食事つきで6万円なので、このような内容での国内旅行より割安感です。ホテルもスタンダードより一段上のクラスでした。フルーツもうまく、11月に南国（高雄では36度でした）を体験できました。

気持ちがだらかで、3時間のフライトで行ける台湾は訪ね甲斐のある隣国です。

石井満さん

ポツダム宣言、サンフランシスコ講和条約の内容を説明され、戦後の円借款の実情を数字を挙げて話された。中国、韓国を始め（北朝鮮を除く）東南アジアとは戦後の償いは済んでいる事になっている。

・影山五月さん

今回始めて参加されました。留学生に日本語を教えていらっしゃる。海外に出国する機会も多く、大陸の勉強をすると、中国において日本人がしたことを思い知らされるようで近代史をしっかりと勉強し、侵略したという事実を知らなければならないと発言されました。

・榊原洋子さん

お嬢さんが韓国留学をされた経験から、韓国の人々には大変親切にされ、ご自身もこのお世話になった韓国の人々とお会いしたときは思わず抱き合ってしまった。と、言う話もされました。個人々々のレベルで、草の根運動のようにお互いを理解する必要がある。戦争について語ってはいるが正しく学んでいなかったのも、現代の教育についても反省していると話された。

・織田沢すみれさん

参加は今回始めてで群馬県から来られました。戦後生まれで、戦争の事は余り判らずきちんと教育を受けなかったと発言されました。

・赤間鉄雄さん（文章で参加されました。）



今回は女性の参加者が多かったです

*

至近の問題としてある首相参拝は小泉純一郎氏が首相の地位にある以上、政教分離の原則に反する事は明白なので、首相がどのような理由づけをしようとも正当化されないで反対です。私も皆さんのお話を聞いて、共感する事が多くありました。安藤さんが心の問題とおっしゃったことが理屈では理解できない、日本人の国家に対する思いを感じ、靖国神社以外の場所に祭るなどと言う考えは、全く別の次元の話で、靖国の心は動かせないと思いました。

『ブレインサイエンスの現在と可能性』 利根川進博士の講演会より

会員の鹿野さんから、1987年にノーベル医学・生理学賞を受賞し、現在も脳科学の分野で活躍中の利根川進博士の講演会の概要をまとめた内容を寄せていただきました。講演のテーマは『ブレインサイエンスの現在と可能性』で、2000年3月に行われたものですが、現在ますます内容の重要性が増している内容ということでの寄稿です。

*

私の専門は分子生物学で、主として免疫の研究をしてきたが、その後、脳科学の研究に携わっている。今日は、「ブレインサイエンス」というテーマで「脳の科学」について話してみたいと思う。私は今、生まれたばかりの赤ちゃんが、大人に成長する過程での脳科学の現在と可能性、そして脳の発育や発達の状況等を研究している。人間の脳の機能には身体的機能と精神的機能とがあり、前者は呼吸機能とか消化機能、運動機能などを指し、後者は、心の機能というもので、これの高次元の機能としては「創造する」というこ

とが挙げられる。人間は他の動物を支配し、地球に君臨している。ということは、人間は地球上で最も獰猛な動物であると言える。

昔、私が子供の頃は、心臓が人の心だと言われていた。しかし今は誰もそのようなことを信じていなし、誰も言わない。心は頭脳であるということは誰でも知っているからだ。今の日本の学校教育では知的能力を重要視しており、知識の詰め込み教育、所謂受験のための教育がなされている。しかし、この様な教育方法の是非について議論が交わされており、早晚結論が出されるであろう。科学知識以外の学問で、心の働きを研究する「心理学」があるが、この心理学は研究者同士で意見の一致を見ることが少なく、学問としては未だ確立されていない。従って、脳の研究こそが、今後最も力を入れなければならない学問であると考えている心理学の研究は脳の研究ともつながるので両者は切っても切れない両輪の関係にある。

10年前にアメリカの先代ブッシュ大統領は、研究機関に対し、脳の機能を解明するよう指示し、研究を重ねているが、近年その成果が上がっていることは事実である。来世紀の21世紀（この講演会は20世紀）には、精神生物学の研究が高度のレベルに達し、脳の未知なる部分が大分解明されるものと思う。

赤ん坊は一日一日の成長過程の中で、外からの刺激を受け、脳のネットワークを形づくり、脳は身体の成長とともに徐々に発達している。脳は常に改良作業を行いながら発達しているのだ。

赤ん坊にも視覚系が備わっており、右目から入った光の情報と左目から入った光の情報を脳はそれぞれ別々にはたらし、それを処理する。生まれつき水晶体がくもっている赤ちゃんは光が入らないから、脳は情報を処理することが出来ず、しかも臨界期が過ぎてしまうと脳は光に対し全く反応を示さなくなってしまう。このため早い時期に治療が必要となる。また、子供が言葉を覚える過程でも臨界期の現象が表れる。赤ちゃんは周りの人が話しているのを無意識のうちに聞いており、赤ちゃんにとって、その言葉の意味は全く分からないが、言葉としては耳から入り脳に伝わる。それにより、脳の回路が知らず知らずのうちに自ずと強化されている。ということは赤ちゃんの脳は、母国語には反応するが、外国語は周りの人が話さないから脳は反応しなくなってしまう。子供も3才位になると親の発音がわかるようになる。私の子供にこんなことがあった。子供はアメリカで育ったので、赤ん坊の頃から何時も英語が洪水のように耳に入ってくる。ですから3才の我が子が、親の発音が違うと言ってきた。それはRとLの発音が違うと言うのだ。（お分かりだと思いますが、rの発音は、舌の先は口の中のどこにもさわりません。しかしlは舌の先は歯ぐきの後ろにつけます）日本語にはRとLに対応する脳の細胞が退化しているので、RとLの発音を聞き分ける能力を持ち合わせていない。この様に発音にしても臨界期の時に発音していないと脳が退化してしまうということが研究によりわかってきた。ということは、このことから外国語は幼児期からの学習が必要ということがわかる。

次に遺伝子の話しになるが、人間の知的能力に遺伝子はどのくらい関わっているか。遺伝子はこれ以上は超えられないという大枠が決まっている。即ち生まれつきもっている遺伝子には、これ以上の能力発揮は、残念ながら、いくら頑張っても所詮出来ないという限界がある。この大枠の範囲内で脳の能力を最大限発現できるようにするためには、そこには教育というもので遺伝子に磨きをかけなければならない。そうかといって遺伝子は変わるものではないが、大枠一杯まで遺伝子にはたらいてもらえることができる。親が子供に与えた最大のプレゼントは遺伝子である。この様にその子もって生まれた遺伝子を最大限活用するためには感覚とか知的刺激を赤ちゃんの頃から与えてやるのが大切で、臨界期を過ぎてしまうとその効果が小さくなってしまいます。

日本の教育は偏差値を伸ばすための詰め込み教育なので、知識力は豊富であるが、感性

を豊かにするような刺激を子供の頃から与えられていないので、人間性の豊かさや情緒に欠けている人間が多くなっているように見受けられる。最近の青少年の異常な犯罪は、そのことを如実に示しており、大変残念なことである。

脳には知的なものと感情的なものを司る脳がそれぞれ違うということは、先程述べた通りであるが、この二つの機能は密接不可分の関係になっており、感情を司る脳も同時に発達しないと知性の機能が十分にはたらかないということが研究によりわかってきた。

ある人はIQテストの結果はかなり高いのに、感情を司る脳がついていっていないので感情的にはクールな人間となって、ものごとに感動しない、或いは感激しないという人間になってしまう。このような人は社会に適合出来ず、正常には生きられないようになってしまう。従って、人間を知的能力だけで評価すべきではなく、総合的な見地から評価すべきである。良い遺伝子をもって生まれた人間は、先ず両親や先祖に感謝しなければならない。

PART2 科学はオモシロイ 創造する楽しさ、発見する喜び 対談者 瀬名秀明氏

科学者とか小説家は創造性 (creativity) に富む人であるが、一般的な面では変わっている人と言われている。人と意見が違い、人の意見には簡単に同意せず、所謂自我が強い人である。一般に科学者には丸い性格の人は少ないようである。

英語でいう taste、日本語では直感とでも訳すべきか。良い科学者と話すと気持ちがいいものだ。言っていることが面白く、興味があることばかりだ。ノーベル賞を受賞したような人はクリエイティブの人が多く、その人の師弟からも同じくノーベル賞をもらう人が輩出することが多い。一般でも同じようなことが言えるが、科学者は、いい先生と付き合いがないと、いつまで経ってもうだつが上がらない。会社でも、いい上司に恵まれた人は、生き生きと働き、持てる能力を発揮し、会社の業績にも、そして本人の功績につながるものだ。

研究室には、その研究室独特の何とも言えない雰囲気というものがある。その雰囲気によって研究者は啓発され、よい研究結果が生まれてくる。人間の脳は、環境からの刺激ではたらきが違ってくるものである。今から100年後、いや100年後と言わないまでも10年後、20年後では知識の質と量が大きく違ってくるものと思う。クローンにしても当初はいろいろと議論はあったが、人間にとって悪いことばかりではないということに気がつき、寧ろ利用すべきであるという意見が多くなってきた。この様に人間は慣れるのが早く、また冷めやすい。ある一定の時期が過ぎると興奮も冷め、逆に上手く利用しようとする。大量殺戮兵器の原爆を、核分裂という化学反応を平和的に利用するようになった。

ここで科学 (サイエンス) とは何かということを知りたい。(1) 人間があみ出した自然・生物を理解するための方法であり、(2) 人間は、わからないことを知ろうとする欲求から生じる学問である。何故、知ろうとするのか。それは脳が知りたがるからである。他人が知っているのに自分は知らないということは嫌なことである。だから知らないことを人間はどうしても知りたがる。科学が発達する所以は実はこの未知なるものへの挑戦であり征服である。

人間は、この地球上に永遠に存在するとは考えられない。どのような形で人類滅亡の危機が訪れるのか。氷河期が来るのか。天変地異が起きるのか。または核爆発により滅亡してしまうのか、誰にもわからない。今わかるのは、地球上に生まれた生物の種のなかで永久に存続するのはないという現実である。(地球上で覇をなしたあの恐竜でさえ絶滅した)

さて、話しは変わり、日本の教育についてであるが、具体的にどうすればよいか。米国の例を挙げると、米国の小中学校では少人数教育で1クラスの生徒数が僅か12人位で編

第11回 会員による講演会『アンチエイジングでいきましょう!』

演者：飯田桂子さん（管理栄養士 元飯田クッキングスタジオ主宰）

日時：2006（平成18）年 2月18日（土） 14：00～17：00

場所：さいたま市民会館うらわ 会費 1000 円

内容：生まれたからには避けて通れない年齢を重ねる（エイジング）を管理栄養士からの経験と見識で、如何に日々の暮らしを理想に近づけるかをアドバイス。

成されており、先ず何と言っても先生達が素晴らしい。先生は、生徒達がそのことに興味をもたせるにはどうすればよいかを常に考え、生徒が自主的に研究、調査させるよう仕組み、そして、その結果を発表させる。一方日本の教育といえば、万事偏差値至上主義の詰め込み教育である。ひどいものになると受験に関係のない科目の話はしてはいけないそうである。アメリカの有名大学は殆ど私立大学で、国家は多額の助成金を出している。しかし日本と違って、国はあまり口を出さない。日本とは大分違うようだ。私は何時も思っているが、大学（学生）には年齢があってはならないと思う。自立した人生を目指すには40才位になったら大学に行く。この様な人こそ本当にハッピーではないだろうか。社会での営みの中で学び、そしてその貴重な体験と経験を生きた学問として、その後は大学の専門分野で学び研究することによって本当の生きた学問が身に付くのではないだろうか。

人にはそれぞれ欲求があるはずだ。その欲求を満たそうとする努力もせずに何もやらない。ただ人を批判しているだけ。そのような人は人として生きている価値がない。そのような意味では自分の目標をしっかり持ち、明日を夢見て生きる人は素晴らしいと思う。

大学に入ったら、4年間で自分は将来何をやりたいかを考えるべきである。日本人は横並び意識が強く、なかなか突出できない。米国人は多様化が進み、どんなことにでも挑戦出来るという土壌と環境が整っている。何をやろうとも誰も何も言わない。だから、思い通りのことが出来る。他人から制約や束縛を受けることなく、そこには本当の意味での自由の思想が流れているので、自由度の高い行動（当然、責任は伴う）が出来るのだ。だからベンチャー企業も興こしやすいし、資金を援助する人も多い。やはりパイオニア精神が宿っているのであろう。マイクロソフトのビルゲーツはハーバード大に入ったが、こんな所に居られるかとばかりに大学を飛び出し、後に巨万の富を築いた。日本では考えられないことをアメリカでは、いとも簡単にやってのける。それを誰もとやかく言わない。全てが自己責任であることが徹底しているからだ。自分で決めたことは誰の責任にもしない。自分自身がその責を負うわけだから。米国ではベンチャー企業を興すような人には一流大学出は少ない。

最後に、これからの科学はどのような方向に進むかという質問に対し、人類には残された未踏の分野は沢山ある。その中でも先程も述べた通り『人間の心の究明と宇宙の解明ではないだろうか』

（鹿野記：さすがに利根川博士の話は、以前の他の先生と比べ、話が脇道にそれることもなく、また飛び飛びになることもなく、終始一貫した話でしたので、この文も比較的纏め易かったようです。ノーベル賞受賞者の生の話ですから、ご参考にして頂ければ幸甚に思います。拙稿ですが、最後までお読み頂きありがとうございました）

◆あとがき◆

あけましておめでとうございます。今回は盛り沢山の内容で嬉しい悲鳴をあげました。これからの会報に指針を与えてくれる内容になっています。今年も皆様の投稿をお待ちしております。

（鳥）